

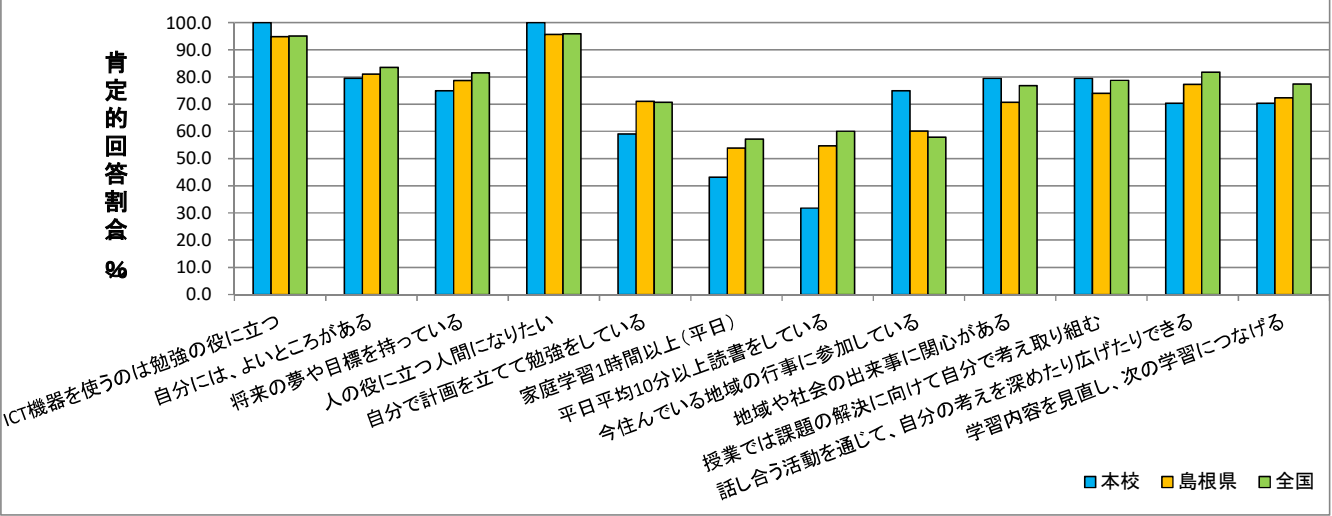
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○思考・判断・表現における「書くこと」の領域は、全国平均値を上回っている。(但し、全国的に低水準である) ●文の中で漢字を正しく使うことに課題がある。 ●文章から読み取ったことを基にして、自分の考えをまとめることに課題がある。 ●話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることにおいて個人差が大きい。	・言葉や漢字について辞書で引いて情報を得る経験を積み上げていくようにする。 ・問題数の少ないプリント類で取り組みやすい状況を作り、意欲を高めさせる。 ・時間や文字数などの条件付きの短作文を国語学習をはじめ、他の教科等でも、ふり返りなどで書かせるようにする。
算数	○乗法計算などの基礎的な技能や、図形の名称など基本的な事項については理解している。 ●比例の関係にあることを使って、知りたい数量の大きさについて求め方を式や言葉で表現することに課題が大きい。 ●グラフなどの資料から見出したことを言葉や数を用いて表現することに課題がある。	・考えの伝え合いなどの場面で、「右の横の線」のような指示語などで直線や角などを示すのではなく、算数学習のことばを大切に活動に取り組むようにすることで、話し合いの効率化やわかり合いをより確かなものにしていく。 ・式や表・グラフなどが示しているものを言葉にしてい活動を授業に取り入れ、言語で表現する経験を積み上げていくようにする。

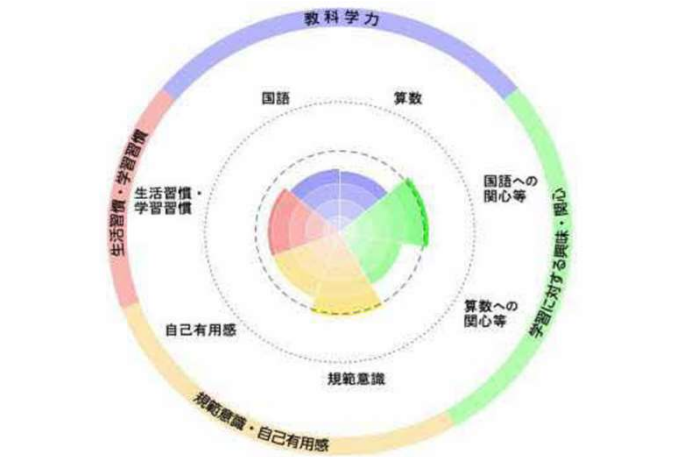
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○地域や社会への関心は高く、地域行事への参加度も高い。家庭と地域の結びつきの強さが奏功していると考えられる。 ○学習は将来のために必要との思いを持っており、役に立つ人になりたいと思うなど、将来へ向けての意欲はある。 ●家庭学習の取組が低迷している。タブレットも利用しているが、入力に手間取ることで内容的には少ないものに長い時間を要するなど、他の活動への意欲を低くしているのも要因と考えられる。 ●ICTの普及にともなって読書量が激減している。	○家庭学習として取り組むとよい内容の具体例を所要時間も併せて示してやり、その中から選択した複数を組み合わせる自主学習とし、計画的に取り組めるようにしていく。 ○いやっこブックとして学年相応の図書を紹介して読書を奨励している。この取組の強化に併せてNIE等も視野に入れ、ICTとのバランスを考えながら読書指導を推進する。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

○学習の定着度が低いことに起因する意欲の低下への対応としてミニプリントなどで基礎的な事項を鍛えることも大切にする。
○個人差が大きい平均値が低く出ている状況にあり、特に低位群の児童に対して基礎的な力を高める場として、自己の伸びが客観的に捉えられる計算チャレンジや100マス計算などで学び直しができるように支援する。
○毎月定例の漢字書き取りや計算大会の事前の取組を大切にしておき、身に付けさせるようにする。
○誰もが自分の思いや考えを出しやすい学級集団づくりを大切にしておき、取り組んでいる道徳の授業の質を一層高める。

【受検者数】
44 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。